

たがしまウオーム

●発行／たかしま市民協働交流センター



5月29日、朽木やまびこ館で「オリジナル朗読劇 平家落人伝承 朽木村井 池の沢物語」が開催された。催しは2部構成で第1部では朽木文化協会所属クラブ・コスモス会の大正琴と田村忠さんのナツメロライブ、ご当地ソングを作詞作曲し、施設訪問やイベントに出演しているボランティアグループ「髭ふくろうの会」による歌の発表があった。



オリジナル朗読劇 平家落人伝承 朽木村井 池の沢物語



第2部は朗読劇。原作は朽木生まれ、安曇川在住の森本純一さん。出演者とスタッフは全員高島市民。森本さんは高島に残る歴史をもとに物語を創作し、その物語に合わせた絵をマキノ在住の伊丹俊次さんが制作。舞台では伊丹さんの絵画をプロジェクター（画像を拡大して投影する装置のこと）スクリーンに映し出し、その前で朗読劇が繰り広げられた（写真）。創作物語と絵画、朗読と最新機器による共演。劇場で観る特別仕立ての紙芝居劇とでも表現したら良いのだろうか。10月28日には安曇川公民館でもオープン講座として開催が決まっている。

出演者、スタッフは次のみなさん（敬称略、順不同）
多谷冬樹、深川澄雄、中西恵美、森本純一、
伊丹俊次、佐々木信教、鈴木正樹、加藤智彦、
杉本学士



◆目次

P 1. 2

東日本大震災 高島市から広がる支援の輪

キラキラ☆NPO・市民活動

P 3 マキノ自然観察倶楽部

P 4 安曇川地域まちづくり委員会紹介

P 5 わがまち散歩・すてきたかしま再発掘
藤本太郎兵衛さんのこと

言の葉たより ヴォーリズ資料館

P 6 「あけっぴろげな」まちづくり

第12回湖西手仕事工房めぐり

ボランティア養成講座 たかしま塾開講

P 7 たかしま INFORMATION

絆 東日本大震災 ～高島市 から広がる支援の輪～

がんばろう日本
がんばろう東北

新旭水鳥観察センター (Tel: 25-5803)

・“アースデイびわ湖”開催(4/17) 石巻市でボランティアを続ける元職員に募金を託すとともに、現地状況報告を受け、自分達に何ができるかを共に考えるきっかけとした

社会福祉法人 高島市社会福祉協議会 (Tel: 36-8220)

- ・東日本大震災 被災地支援報告会 参加者 約170名(4/21)
- ・主として現地災害ボランティアセンター支援のためボランティアコーディネーターを派遣(3/27～23、4/3～9、4/28～5/8、5/9～16)
- ・義援金受付中です!

～高島市社協より夏休みを利用して被災地支援を予定されている方々へのお願い～

- ・出発前に高島市社会福祉協議会にてボランティア保険の手続きをお願いします。
- ・ボランティア相談/現地状況説明を随時受け付けています。
- ・県社協が東北へのボランティアバスを運行することがありますのでご相談下さい。



ありがとう

日本赤十字社滋賀県支部高島地区 (高島市役所が窓口)

- ・義援金募集 45,586,978円(6月7日現在の累計額)
- ・現在も 市役所・各支所にて義援金を受付中です!

高島市・日赤奉仕団、個人ボランティア、たかしま市民協働交流センターなど

- ・救援物資受付 (約700名から多数の救援物資を提供いただき、ボランティア団体などの手によって受付・仕分けが行われ高島市により4月7日に「高島商人」つながりの岩手県及び岩手県宮古市に届けられた)
- ・今後も救援物資を受け付ける可能性がありますのでご協力ください!

陸上自衛隊 今津駐屯地

- ・災害派遣により宮城県で約200名が瓦礫の撤去、行方不明者の捜索、炊事・給水支援などの活動を行った

航空自衛隊 饗庭野分屯基地

- ・災害派遣により宮城県及び福島県で延べ80名が活動を行った(第1次～第7次)

高島市 (Tel: 25-8000)

- ・支援物資提供
 - ・第一弾 水、毛布など(3月12日搬送)
 - ・第二弾 紙おむつ、生理用品、カップ麺など(4月7日搬送)
 - ・第三弾 クレープ下着、野菜ジュースなど(5月1日搬送)
 - 高島織物工業協同組合を通じ高島晒協業組合その他から支援物資提供のご協力をいただきました
- ・高島市消防本部
 - ・緊急消防援助隊 第1次～第7次(延べ43名)
- ・公立高島病院
 - ・災害派遣医療チーム(伊丹空港での被災者受入対応/5名)
 - ・医療救護班 2回(9名)
 - ・看護師派遣 3回(6名)
- ・高島市役所
 - ・給水支援 3回(11名)
 - ・支援物資搬送 2回(8名)
 - ・保健師派遣 2回(2名)



今回紹介した以外にも個人やグループで様々な取り組みが行われています。

から広がる支援の輪



高島市において
何が出来るか考えよう!

誰もが被災地に入ってボランティア活動が出来るわけではありません。そういった活動をしているNGO/NPO団体を資金面で応援することも今求められています。(詳しくは下記をご覧くださいか、協働交流センターまで)

<http://tkkc.takashima-shiga.jp>

(協働交流センターNIGAJI記)

今回の大震災における高島市の義援金の多さや、各種団体による支援活動の幅の広さ・活発さは他市町に比べて目を見はるものがあります。災害救援を活動目的とされていない団体も、自分たちが出来ることを、自分たちの力の範囲で取り組んでおられるようです。こういった市内の災害支援活動の活発さの理由として、原子力発電所が近くにあることが、琵琶湖西岸断層帯による地震災害の備えが浸透しているといったいろいろな理由も考えられますが、高島市民に根付いている温かい気持ちがあるのではないのでしょうか。



絵本の仕分け作業

NPO法人 絵本による街づくりの会 (Tel: 27-8156)

- ・絵本を被災地に届けよう(4/1～4/20で約1000冊募集受付、500冊発送済み)
- ・現地状況の変化に合わせ有効な支援策を検討中です。お問合せは電話にて

NPO法人 湖西生涯学習まちづくり研究会 どんご (Tel: 20-2301)

- ・子どもの心のケアのために「おもちゃの広場キャラバン隊」派遣準備中
- ・高齢者・乳幼児・障がい者に「おかゆ」を送ろう(一口2000円のカンパ受付中!)

NPO法人 IBO. Japan (Tel: 22-2256)

- ・東日本震災復興支援ボランティアバザール開催(5/22、朽木846 MTB CARNIVAL)
- ・PTA/町内会などでのボランティアバザールに協力します!
- ・バザール用物品をご提供下さい。全国各地で支援バザールを開催しています!
- ・たかしま災害ボランティアネットワーク なまず (Tel: 25-5095)

- ・義援金活動道の駅マキノ追坂峠にて(3/27)
- ・比叡山延暦寺一山仏教青年会に協力し北茨城の関係各寺院を通じ支援物資を提供(3/18～21)
- ・公的機関を通じて福島県の避難所へ救援物資を提供(4/5)
- ・福島県いわき市社会福祉協議会、いわき市勿来災害ボランティアセンター本部、災害ボランティア推進委員会と連携し救援物資を提供(4/8、4/22)

朽木・群・ひとネットワーク

- ・朽木発震災・防災チャリティ～つなごう～(4/16)

東日本大震災応援チャリティロビーコンサート実行委員会

- ・東日本大震災応援チャリティロビーコンサート 元気をだして!～私達もあなたにも～(5/22)

たかしま心援隊

- ・東北地方太平洋沖地震チャリティイベント「被災地の現状は今!」約100名参加(4/25)

アートサポートたかしま

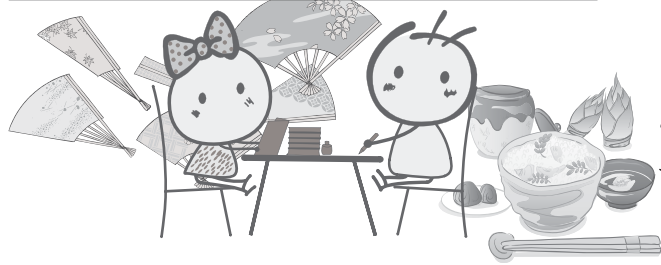
- ・鯉のぼり応援旗を福島県に寄贈

社団法人高島青年会議所 (Tel: 25-4207)

- ・講演とパネルディスカッション人々のつながりの大切さ～琵琶湖西岸断層帯の上で生きる私たち～地域のつながりで高める防災力(6/5)



朽木発震災・防災チャリティ



藤樹かるたや紙芝居

安曇川地域はなんと言っても中江藤樹先生の町ということから、まちづくり委員会でも生誕400年祭にあわせて”藤樹かるた”や紙芝居作りに取り組みました。その事業は平成19年度からスタートし、今年3月7日の立志祭では、150人の子どもたちが藤樹書院で将来の夢を書いた作文を奉納した後で安曇川公民館に移動し、かるたや紙芝居を楽しみ、藤樹先生の教えにふれました。



近江商人のさきがけ高島商人

そして、まちづくりは自分たちが住んでいる地域を見つめ直すことから始めようと委員が何回もアンケートを行って、いろいろな地域資源の発掘を行った結果、約400年前から近江商人の先駆けとなる高島商人が岩手県で活躍されていることが判り、交流をスタートしました。安曇川地域ではこのことはほとんど知られていなかったのですが、まちづくり委員会で取り上げたことがキッカケとなり、平成21年8月には“みちのく高島商人に学ぶ会”が盛岡市に生まれ、高島市商工会やロータリークラブさんとも協力して、道の駅での物産交流などに発展していきました。そして、今年の東日本大震災では、市内で集まった救援物資を高島商人繋がりや岩手県や宮古市へ高島市の手によってお届けすることが出来、大変喜んでいただきました。



安曇族の調査へ

この様に高島商人にまつわる取り組みが高島市をあげての交流として大きく育ってきたのを機に、平成22年度からは日本全国の安曇(あずみ)族のことを調べています。湖西地方は、古来より渡来人が文化や技術を持ち込んだと言われており、それを証拠付ける遺跡などもたくさん出ていますが、安曇族も渡来人の人達がルーツであると言われています。長野県や全国各地のあずみ地との情報交換によって、今後はどの様な話に発展するのか委員全員が楽しみにしています。

中江藤樹先生と扇骨の町として全国に知られている安曇川町ですが、まだまだ知られていない貴重な伝統や歴史があるはずとの想いで地域資源の掘り起こしと次世代への伝承を中心に活動されている安曇川地域まちづくり委員会のお話を、委員長の山本義雄さんにお聞きしてきました。

安曇おふくろの味

こうした忘れかけていたことを掘り起こし、未来に伝承しようという取り組みに重点を置いて活動してきたところ、地元の郷土料理を調査研究されていた女性グループから活動内容をまとめたいという提案をいただきました。そして、これは“安曇川地域魅力ある地域づくり事業”として“わがまち安曇のおふくろの味”という冊子として成果が形となりました。平成21年度に発刊したところ市内外から大変な評判を呼び、まちづくり委員会で支援して増刷しましたが、それでも欲しいという人々の全てにお応えできない状況です。



ふるさとのうたを発掘

また、市内の学校の校歌などに中江藤樹先生を讃えた歌詞がたくさんあるという話が出てきて市内全域を対象に調査したところ、藤樹先生以外にも興味深い歌が続々と発掘できました。この活動は行事歌や仕事歌なども含め、今では多くの人達が忘れてかけている歌の楽譜をおこして冊子にまとめる“ふるさとのうた収集伝統文化芸術事業”へと発展させ、今年初めに立派な冊子が完成しました。そして、今現在CD化にも取り組んでもらっているところです。

安曇川地域まちづくり委員会の活動は、中江藤樹先生を中心にしたスタートでしたが、活動を進めて行くにつれ市内全域に目を向け、さらには対象を日本全国に広げて我が町の価値を探してきた結果、高島市の資産とも言うべき成果をいくつも生み出すことが出来ました。これからも、ごく一部の人達にしか知られていない郷土の資産を発掘し、地域内外の人達や団体の協力を得ながら、次の世代に伝承できるように11名の委員全員が情熱を持って取り組んでいきます。

(文責：たかしま市民協働交流センター NiGA)

お問い合わせ：高島市役所 安曇川支所
〒520-1292 高島市安曇川町田中 455
TEL:0740-32-1131

安曇川地域人口 13,917 人
(平成23年5月31日現在)
(高島市役所ホームページ・高島市の人口世帯数より)



マキノの豊かな自然を 将来に引き継ごう！

山のあちこちに残っていた雪も融け、寒々としていた山の木々が新緑に変わり始めるとマキノの山にはたくさんの方が訪れるようになります。お目当ては登山道沿いにピンクのじゅうたんを敷き詰めたとように広がるカタクリやトクワカソウの花です。



しかし、登山客の増加は、一方で花の盗掘や踏みつけ、ゴミの放置にもつながります。

活動のきっかけはこんな所から始まりました。「赤坂山の花の紹介と山でのマナーを呼びかけるガイドブックを作成しませんか。」と旧マキノ町からの呼びかけに会社員や主婦、教師や観光協会の職員などが集まりました。

平成8年から9年、私たち自身が花を調べ、手づくりでガイドブックを編集しました。

ガイドブックが出来上がるとすぐ「マキノ自然観察倶楽部」を立ち上げ、「自分たちでこの豊かな自然を守りたい、未来の子ども達にも残したい。」と活動し出したのは、ガイドブックを仕上げた達成感、それと何よりも赤坂山への愛着心でした。

活動の広がり

当初、赤坂山の自然観察会からスタートした私たちの活動は、その後、より多くの方にマキノの自然に触れてもらえるようにと、子ども対象のクラフト体験や女性をターゲットにしたリース教室などの事業を実施することとなりました。

この間、活動をより実効性の高いものにしていくためには、自分たちだけが活動するのではなく、地域の人たち自身に地域の素晴らしさを自覚してもらうことが大切であり、そのためには地域を巻き込み、他の機関と協働し、共感を得、まちづくりにもつながる活動にまでならなければならないと考えようになりました。

地域の課題は、一つの原因だけで生まれるのではなく、様々な課題が絡み合っている訳ですから、解決のために様々な主体が知恵を出し合い、協力して解決にあたるのが大切なのは普通に考えても当たり前のことです。

マキノ自然観察
倶楽部事務局長
谷口 良一



協働によるまちづくりへ

平成16年度からは旧マキノ町の呼びかけもあり、地域の観光施設やホテル・民宿、観光協会、農業関係者、NPO等が集まり、マキノの地域資源を活かした体験ツアーの実施について検討し、平成17年には最初の1泊2日のツアーを実施することになりました。記念すべき1回目は、赤坂山に登って、天然のキノコを採ってもらい、翌日はやまおやじの観察、リンゴ狩り、リースづくりなどを体験してもらうというものでした。

この体験ツアーも現在は「マキノ里湖体験ツアー協議会」の事業として、年4回実施しており、平成20年度には環境省からエコツーリズム大賞特別賞をいただきました。年4回のツアーでは、初夏には「ホテル観察」、「投網体験」、「湖魚の佃煮づくり」、夏休みには「キャンプ」、「カヤック体験」、「ブドウ狩り」、晩秋には「キノコ採り」、「星空観察」、「シカ見学ツアー」冬には「スノーシュー体験」、「酒蔵見学」、「そば打ち体験」等を体験していただけます。もちろん、食にもこだわり、フナ寿司やピワマス、ポタン鍋、鴨鍋などマキノらしいものを提供しています。



この「マキノ里湖体験ツアー協議会」の会長はマキノ自然観察倶楽部の私がつとめさせていただいていますが、マキノ自然観察倶楽部だけでは到底できない内容のものです。しかし、マキノの皆さんに関わっていただければ、何の苦勞もなくできてしまうのが不思議です。ツアー当日は参加者以外のたくさん関わっているメンバーも参加者と同じくらいに楽しくツアーを運営しています。

楽しみながら、いつも自分たちがやっていることをするのが長続きの秘訣でしょうが、このマキノでの取り組みはその内容からしてもこの高島市内でならいくらでもできる内容です。こんな活動が高島市内に広がり元気な高島が発信できればいつも考えています。

お問い合わせ：一般社団法人 めいどいんマキノ内 梅本
TEL 0740-20-1361
H P : <http://nature-makino.sakura.ne.jp/>

すてきたかしま再発掘

藤本太郎兵衛さんをご存じですか？

昨年十一月に市民劇「琵琶湖治水の物語」で紹介されたのでご存じの方も多いことでしょう。

琵琶湖は太古の昔より瀬田川一本の排水路のみ。周辺の村々は、重なる水害に悩まされてきました。江戸時代後期、深溝村（現高島市新旭町深溝）の庄屋藤本太郎兵衛さんは、琵琶湖治水の難問と湖辺農民を苦しみから救いたいと立ち上がり、親子三代、五〇年をかけて、瀬田川川ざらえのため各組織に嘆願、自らの財産もつぎ込み尽力、ついに天保二年（一八三一）に幕府から許可が下り



藤本 太郎兵衛さん

「天保の御救大俊（おすくいおおさらえ）」と呼ばれる大事業を成し遂げました。

そして月日は流れ、琵琶湖総合開発事業の終結は平成九年（一九九七）八月七日。初代太郎兵衛さんから二百余年の歳月の末、完結しました。

「ひとりみんなのために」の心意気で、不可能とも思える治水事業に果敢に取り組んだ太郎兵衛さん。そんな太郎兵衛さんの気概と助け合いの心は今も脈々と高島市民に受け継がれているような気がします。先の東日本大震災にも多くの義援金が寄せられ、高島市の市民活動団体も市民総数からみるとたいそう多いそうです。

太郎兵衛さんの業績をたたえた銅像は、平成六年に地元彫塑家川原林たまさんによって制作され、地元民の手で建立されました。場所は新旭風車村付近の湖岸。琵琶湖を背に凛々しく立っております。

「あけっぴろげ」なまちづくり

去る5月13日から15日の3日間、第12回湖西手仕事工房めぐり「あけっぴろげ」が開催された。3日間を通じて述べ2500人近くの方が工房めぐりを楽しんだ。

この催しは「手仕事」に係わる市内在住の作家のみなさんが「何かできないかな」と話し合われた2000年に産声をあげ、自宅や工房を開放して作品も個人も自宅もあけっぴろげに行われるところからタイトルの「あけっぴろげ」の名前がついたとか。



「開催までは準備が大変ですが、毎年市内外から来て下さる方々と直接ふれあえるのが楽しい」と木工作家の小田切健一郎さん、裕美さんご夫妻。10回まで事務局を務められた造形作家の山口耕一郎さんは「ここで出会って友達になって、翌年一緒に来てくださる。ここが出会いの場の提供になっていることがうれしい」と。作家さんも笑顔、お客さんも笑顔の催し。

展示作品は精緻な技巧に個性的な色遣い、優しさやユーモアにも溢れ、見るものを引きつける。

展示場には高島市や滋賀県のイベントチラシが置かれていたので、そのことを尋ねたら「普段お世話になっていますから」と謙虚なコトバが返ってきた。「作家として一人一人は小さな力だけど、同時に開催することで、近くの方も遠くの方も一度に見て回れ、高島市を訪れてくださる機会づくりになっていると思う」とも語ってくださった。



どの会場近くにも、道筋に立てられた「あけっぴろげ」の看板、その看板に吸い寄せられるように次の工房に辿り着く。作家さんのまちづくりの心に触れ、笑顔あふれるまちづくりってホント素敵と心温まる思いで帰路について。今年見逃された方、来年は必見です！

あけっぴろげ参加作家のみなさん（敬称略・順不同）
梅山克 山口耕一郎・清美 小田切健一郎・裕美
立石善規・啓子 小林斐子 若山久男・佳代子
野口しげじ・浩子

まちづくりボランティア養成講座 たかしま塾 開講

まちづくりボランティア養成講座「たかしま塾」の開講式が、5月21日（土）夜、安曇川公民館で行われた。この「たかしま塾」は、高島市の平成23年度協働提案事業としてNPO法人湖西生涯学習まちづくり研究会と高島市と協働で開催するもので、全国のまちづくり先駆者に学び、共にディスカッションを交わしながら、まちづくりの意義と喜び、地域課題の発見・解決の為の企画や実践のスキルを学ぶことをねらいとしている。

開講式では、NPO法人どろんこの保井代表より「住民自らがまちづくりに取り組んでいる方々を全国からお招きしています。高島市にふさわしい活動事例もたくさんあるのでご期待下さい」と挨拶があり、式後の講義では、塾長で生涯学習が専門の今西幸蔵・神戸学院大学教授より「自分で問題を見つけ、解決の取り組みを考え行動していく」という生涯学習の意義や、「これからのまちづくりには、ボーダーレスの視点を持ちつつ我がまちの魅力を磨くことが重要だ」といった話があり、約40名の受講生は今後の展開（全10回コース）に大きな期待を寄せていた。



本誌で紹介できなかったイベント情報や助成金・補助金情報を、貴方の携帯電話にメールでお届けします。（毎週金曜日夕方）

「高島市まちづくりメルマガ」

左のQRコードを読み取り空メール
返信メールの指示に従いクリック！

横の長さ 85mm
縦の長さ 28mm

次号のたかしまウォッチ第12号
発行は9月1日前後 締切り 8月5日（金）

規格：縦の長さ 28mm×横の長さ 85mm
一色刷り

掲載料：1か月（1発行限り）10,000円
発行部数：18000部

お問い合わせ たかしま市民協働交流センターまで【連絡先7ページ下】

ヴォーリス資料館

建物は大正12（1923）年、百三十三銀行今津支店として、ヴォーリス建築事務所の設計により建設。館内ではヴォーリスの生涯と日本各地のヴォーリス設計建築物をパネルや模型で紹介、また展示室の中央にはカフェが設けられ、演奏会や文化教室なども催される。地域のサロンとしても機能しておりコーヒーは200円、カレーは300円から提供されています。



「奥琵琶湖を訪ねて、今津で船をおり、今津の町を散策しております。ふと立ち止まったヴォーリス館の美しさに、壁の白さに我を取り戻したような明日への励みをいただきました」（京都府）

「福井の実家へ帰る途中、偶然見つけ立ち寄りしました。感激感動しました。良いところを発見しました。これからも立ち寄りたいたいです」（吹田市）



観光客の方が、施設設置のノートやそこで働く方に語られた言葉の紹介です。今回はヴォーリス資料館（高島市今津町今津一七五番地）のノートに残された言葉の紹介です。

たがしま INFORMATION

紅葉の会（介護者のつどい）

と き 7月22日（金）8月22日（月）13：30～
 ところ 喫茶「Café Cozy（コージィ）」
 高島市今津町舟橋 2-8-10
 内 容 介護に疲れていませんか？介護に関心のある
 人、介護経験者が月に一度集まりワイワイガ
 ヤガヤ。気楽な気持ちでご参加ください。
 年会費 500円 つどい時の飲み物は実費
 問い合わせ先
 ☎ 0740-22-1414

音訳サークル【たがしま】会員募集

と き 7月24日（日）9：30～15：30
 10月24日（月）9：30～15：30
 （参加可能な時間帯でOK）
 ところ 今津東コミュニティセンター第3会議室
 内 容 視覚障がいの方に広報や議会だよりなど高
 島市の情報を「声のたより」として届ける
 ボランティア活動。広報や議会だよりの読
 み合わせを行い、体験していただきます。
 指 導 日本ライトハウス職員 中井はつみ先生
 問い合わせ先
 ほろん・足立、岸田
 ☎ 0740-22-4041(9:00～16:00)
 FAX 0740-22-4131

みかく 味果食まつり

と き 7月24日（日）10：00～16：00
 ところ マキノピックランド
 内 容 夏野菜、果物を使った来場者参加型のイベ
 ント。模擬店の出店などもりだくさん
 問い合わせ先
 マキノピックランド
 ☎ 0740-27-1811
 FAX 0740-27-0590

たがしま市民協働交流センター

たがしま市民協働交流センターは、市民活動、NPOを応援しています。

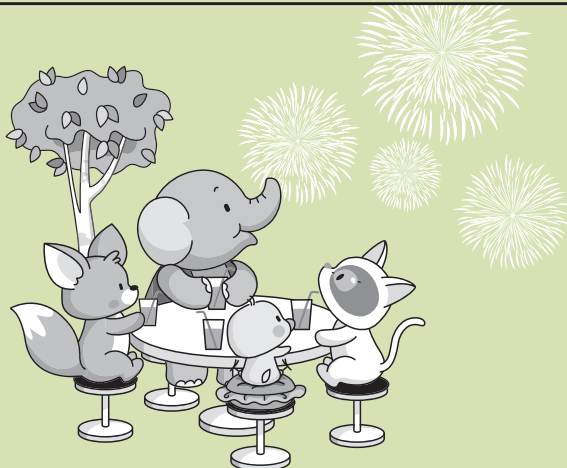
- ◆〒520-1622 滋賀県高島市今津町中沼 1-4-1
 （今津東コミュニティーセンター内）
- ◆TEL：0740（20）5758 FAX：0740（20）5757
- ◆URL：http://tkkc.takashima-shiga.jp/
- ◆E-mail：webmaster@tkkc.takashima-shiga.jp
- ◆開館時間：10時～19時
- ◆休館日：日曜日・祝日・年末年始（12/28～1/3）

新竹取物語

と き 7月23日（土）9:30～14:30（小雨決行）
 ところ 高島市安曇川町川島地先の安曇川河川敷
 内 容 竹林整備、調理実習、竹工作、竹遊び等
 参加費 高校生以上 1000円
 中学生以下 500円（3歳以下無料）
 申込み 往復ハガキに「新竹取物語」と明記し、
 方法 代表者の住所、氏名、参加者全員の氏名・
 年齢・電話番号を記入し7月18日までに
 〒520-1221 高島市安曇川町青柳 992-2
 主 催 あどがわエコツアークラブ
 申込み・問い合わせ先
 ☎ 090-4687-7589（阿部）
 FAX 0740-32-0206

航空自衛隊 饗庭野分屯基地 納涼祭

と き 7月23日（土）15：00～20：00
 （基地開門：14：30 雨天開催）
 ところ 航空自衛隊 饗庭野分屯基地
 JR新旭駅より送迎バスを運行します（予定）
 主 催 航空自衛隊 饗庭野分屯基地
 分屯基地協力会「饗親会」
 問い合わせ先
 ☎ 0740-25-4343 内線 204



たがしま市民協働交流センター運営委員一覧

馬場八州男	保井五雄	井上薫	和治佐代子	青谷龍章	澤田龍治	長濱洋	伊丹俊次	谷仙一郎	三田村弘子	委員	金田群子	副委員長	榭始	運営委員長
-------	------	-----	-------	------	------	-----	------	------	-------	----	------	------	----	-------

（監事）